

子どもの手作り地図の紹介

昔を感じ、今を見つめたジャンボ地図

岐阜大学教育学部附属小学校 奥村 雅人

夏休みに、この地図作品に取り組むきっかけとなったのは、社会科の授業でした。

岐阜大学教育学部附属小学校では、社会科の授業の課題追究において、『自分の資料』というものを作成し、考えづくりの根拠としています。

『自分の資料』とは、課題解決のための根拠となる資料を、子ども自らが収集・選択し、分析しながら、下記のような点に留意し、作成するものです。

- ☆課題とのつながりのある資料か。
- ☆事実をもとにして、自分で説明できる資料か。
- ☆仲間から見やすい資料か。

『自分の資料』を用いて、1学期に行った授業実践では、子どもたちが、具体的に根拠を示しながら自分の考えを述べる姿がみられました。

この地図作品に取り組んだ内海君も、『自分の資料』で課題を追究する楽しさを味わいながら、学習することができました。(右写真は、『自分の資料』を用いた授業風景)



テーマの設定について

この作品のテーマ設定の理由は次のようでした。

- ☆中山道誕生節目の年であり、昔の道に興味があったから。
- ☆自分の家のそばに、中山道が通っていたから。

作成過程における工夫

内海君は「ただ中山道を書物などで調べて、地図を作成するだけでは、自分だけの納得できる地図とならない」と感じ、次のような点に心がけて、作品づくりに取り組みました。

- ※エリアを区切り、中山道を実際に歩きながら、昔を感じ、その場所のようすを地図にまとめることにした。
- ※中山道が、今の道路と「どのような関係にあるのか。」をわかりやすく示すため、中山道と今の道路を重ね合わせて見ることができると透明シートを用いることにした。
- ※他の人から見やすいように、配色に注意し、写真を効果的に活用することにした。

作品を作り上げての感想

「楽しみながら、地図作品に取り組めた」という思いでいっぱいでした。特に、中山道を歩くことによって、その場所ごとの特徴や雰囲気、昔のようすを自分なりに感じることができたと思います。「知らない地域を知ることができた」という感じもしました。そして、何より、家族とたくさんふれあうよいきっかけとなりました。

また、中山道が今の道路にはたしている役割の大きさもずいぶんわかりました。「自分なりにやりきった。」という自信のもてる作品になりました。

夏休みに取り組んだこの地図作品は、9月に入り、学校の仲間を紹介されました。全校の仲間から、視覚的にも、内容的にもわかりやすいと評価されました。

夏休みという期間を利用し、長い時間をかけ、楽しみながら地図作成に取り組めたことは、子ども自身が、地図を身近なものに引き寄せ、地図による表現のよさを感じることに繋がったと思います。

今後も、子どもたちに、こういった機会をたくさん与えていきたいと考えています。

岐阜県

昔と今の道を見比べよう

4年 内海大成



調べようと思えた理由

ぼくは、小さいころから、家族とたくさんがけをして、いろいろな道を、車やバスや電車で走りました。けしきを見ていると、今は、きれいな道がいっぱいあるけれど、昔の道はどこにあるのかな？と思った。岐阜県の今と昔の道を比べて、調べてみました。そのなかから、さかいの道の中山道へ行って、いろいろ見ました。

昔の道を知ることができた

昔の道を知ることができた。昔の道は、今と違って、車やバスや電車で走ることができなかった。昔の道は、歩いて歩いた道だ。昔の道は、今と違って、きれいな道がなかった。昔の道は、今と違って、いろいろな道があった。昔の道は、今と違って、いろいろな道があった。

昔と今の道を比べてみた

昔の道は、今と違って、車やバスや電車で走ることができなかった。昔の道は、歩いて歩いた道だ。昔の道は、今と違って、きれいな道がなかった。昔の道は、今と違って、いろいろな道があった。昔の道は、今と違って、いろいろな道があった。



中山道 - 美濃16宿の旅 -

昔の日本のなかで、中山道は、今と違って、400年ほど前から使われてきた道だ。中山道は、今と違って、きれいな道がなかった。中山道は、今と違って、いろいろな道があった。中山道は、今と違って、いろいろな道があった。



旅のおわりに... 家族と3日間かけて旅を全部やり終えました。ぼくは、今と違って、中山道は、今と違って、きれいな道がなかった。中山道は、今と違って、いろいろな道があった。中山道は、今と違って、いろいろな道があった。